

H - A ロケット輸送能力向上の評価について

平成 15 年 6 月 30 日
計 画 ・ 評 価 部 会

1 . 経緯等

H - A 輸送能力向上に関しては、これまで H - A 増強型として、平成 11 年度に、宇宙開発委員会において、平成 14 年度の飛行実証を目標に平成 12 年度からの開発着手が妥当とした。

その後、平成 11 年 11 月の H - A ロケット 8 号機の打上げ失敗等を踏まえ、計画が見直されてきており、当該見直しについての審議を宇宙開発委員会にて行い、平成 17 年度の打上げを目指した開発計画を妥当とした。

一方、「我が国の宇宙開発利用の目標と方向性（平成 14 年 6 月 26 日宇宙開発委員会決定）」において、「H - A 標準型以上の能力を持つ輸送系（H - A 増強型）を開発する場合には、H - A 標準型を基本に民間に主体性を持たせた官民共同開発を行う。そのため、官民の関係者からなる作業チームを文部科学省に設置し検討を行う。」とした。これを受け、文部科学省内に設置された「H - A 民営化作業チーム」において、H - A 輸送能力向上に際しての開発の進め方について検討を行い、平成 15 年 4 月にとりまとめを行った。

2 . 評価の目的

H - A ロケット輸送能力向上は、H - A 増強型として開発（実施フェーズ）へ既に移行しているが、その後の環境条件の変化を受けて、宇宙開発事業団ではプロジェクトの全体像を大きく見直すこととしている。

従って、開発（実施フェーズ）期間中の中間評価として、本計画の見直し内容と根拠についての妥当性に関する評価を行う。

また、評価に当たっては、本計画が H - A 標準型を基本に民間に主体性を持たせた官民共同開発で行われることを考慮する。

3 . 評価内容及び進め方

宇宙開発委員会評価指針特別部会報告書「宇宙開発に関するプロジェクトの評価指針」（以下「評価指針」という。）に基づき、実施フェーズ期間中の中間評価を行う。

以下の項目のうち、環境条件の変化に伴い影響を受ける項目の評価を行う。

- ・ 意義の確認
- ・ 目標および優先度の設定
- ・ 要求条件への適合性
- ・ 開発方針
- ・ 基本設計要求の妥当性及びシステムの選定
- ・ リスク管理
- ・ 実施体制
- ・ 資源配分

4 . 評価の時期

平成15年8月を目途にとりまとめを行うこととする。

5 . 評価の実施体制

計画・評価部会の下に、H - A ロケット輸送能力向上評価小委員会を設ける。
構成員は別紙のとおり。

別紙

H - Aロケット輸送能力向上評価小委員会構成員

(委員)

主査	松尾 弘毅	宇宙開発委員会
	川崎 雅弘	宇宙開発委員会
	五代 富文	宇宙開発委員会

(特別委員)

小林 修	東海大学工学部教授
澤岡 昭	大同工業大学学長
茂原 正道	翔エンジニアリング(株) 代表取締役
雛田 元紀	宇宙科学研究所名誉教授
松尾亜紀子	慶應義塾大学理工学部助教授
宮村 鐵夫	中央大学理工学部教授